令和６年２月２９日　　横浜市立緑小学校

緑小だより　３月号

ふれあい　学びあい　みとめあう　みどりっ子

Mail：y3midori@edu.city.yokohama.jp　　URL http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori

年度末に際して

校長　寺澤 みゆき

一月往ぬる、二月逃げる（いちげついぬる　にげつにげる）とはよく言ったもので、光陰矢の如し。あっという間にこの２か月が終わり、明日からいよいよ三月です。三月去る（さんげつさる）。残り１か月も、気を抜くとすぐに終わってしまいます。このような時だからこそ、一つ一つ事柄を大切にしていきたいものです。年度末になり、各学年ともに学習のまとめや、成果発表会を行う時期になりました。

先週の木曜日、２月 22 日は第６学年の「輝きの会」でした。この行事は、６年間の自分たちの成長を振り返るとともに、お世話になった方々に感謝を伝えることを目的に開催されました。内容は、合奏、パフォーマンス、体育発表、劇と４つの分野に分かれ、自分が得意とするものを、それぞれのよさが一番発揮できる方法で発表する形で行われました。各分野の発表後には、６年生全員での合唱、保護者や教職員への手紙や手作りのプレゼント渡しと、あっという間の２時間でした。

この会に参加させてもらいまず驚いたのが、発表内容の種類の多さです。20 種類以上もの「輝き」が見られるとは、思ってもいませんでした。合奏や運動、ダンス、演劇など、練習を積み重ね、当日その場で披露するものだけでなく、事前に長い時間をかけ、作り上げた動画やプログラミングを投影し発表したものなど、バラエティに富んでおり圧倒されました。

しかし、６年生の「輝き」を感じたのは、その発表内容だけではありませんでした。会の最中に６年生の「輝き」を感じたいくつかの事柄を、皆様にも伝えたいと思います。

まずは、自分の場面ではきびきびと動き、出番が終わるとさっとはけて、次のプログラムに場所を譲る姿。会全体を意識し、持ち時間を守ろうとする姿勢が全員にあったことです。

次に、裏方ともいえる司会や劇の進行などのうまさ。見る人々に分かりやすいよう、工夫して伝えていました。

そして、私が一番感動したのは、仲間を励まし応援する姿です。発表会となると、自分のことに精いっぱいで周りのことが目に入らなかったり、配慮をする余裕がなくなったりしがちです。ところが、舞台上でパフォーマンスをする友達に声援を送り、技に失敗した時は応援を、成功時には称賛の拍手を惜しみなく送る姿が、会の中の至るところで見られたことです。観客としての姿勢も、輝いていた２時間でした。

もう一つ驚いたことは、主催である６年生も、「輝きの会」の全体を通して見たのが、実は本番が初めてだったというのです。

２月に入り、寒暖の差が激しくなったこともあり、緑小学校ではインフルエンザが流行していました。６年生も学級閉鎖になるクラス、かろうじて閉鎖にはならないものの欠席者が多いクラス、インフルエンザではないが、体調がすぐれない者が後を絶たない時期でした。練習の日にちも内容も、当初予定していたものが難しくなってしまったと、担任の先生方が話し合っている様子を何度も見かけ、はらはらしていました。「輝きの会」が無事実施でき、感謝と安堵の気持ちで一杯でしたが、全体を通してのリハーサルなどできず本番を行ったと聞き、６年生の底力と度胸を感じ、頼もしく思いました。６年生の時間もあと 13 日。１年生から５年生も 15 日間です。

卒業証書授与式、修了式までの残された一つ一つの学習や行事を通しても、さらなる成長が図られるよう指導し、見取り、共に喜んでいきたいと職員一同、思っております。

今年度も残り少なくなりました。アフターコロナのこの時、以前に戻せるところ、変えていかねばならないところと、一つ一つ悩み、話し合いながら教育活動を行った１年でした。折に触れ、温かい言葉をいただくことも多く、地域、保護者の皆様には感謝しかありません。どうもありがとうございました。